

令和6年度事業報告

渋谷ファッション&アート専門学校

定められたカリキュラム、学事は服飾、文化両課程ともすべて予定通りに実施した。

1. 6年度在籍者数

○服飾専門課程：在籍者数 ()=留学生

学年	年度初め 在籍者数	卒業・進級者数	休学者数	退学者数
1年	16(1)名	9(0)名	2(0)名	5(1)名
2年	12(0)名	9(0)名	1(0)名	2(0)名
合計	28(1)名	18(0)名	3(0)名	7(1)名

服飾専門課程の6年度入学者数は、過去最少となる13名で（5年度1年生で休学した3名が再度1年生となるため、在籍者数としては16名）、1・2年合わせての課程の在籍者数もこれまでの最少人数であった。前年休学し再度1年生となった3名の内2名は退学、1名は休学継続となった。入学した1年生13名の内進級は9名で、退学3名、休学1名であった。

退学者7名の内、明確に進路変更をした者は1名であった。他6名は体調不良、出席不良などであるが、内4名が通信制高校の卒業生であった。社会的に多様な学び方が奨励される中で、これまでとは異なる学び方を経験してきている学生に即した対応になっているかなどの問題点を洗い出し、コミュニケーション能力の向上や学習意欲の喚起への対策を改めて講じていく。

○文化専門課程：在籍者数 ()=留学生

	学科名	年度初め 在籍者数	年度末 在籍者数	退学者数
週4日通学	美術表現科	40(38)名	39(38)名	1(0)名
	造形表現科	40(38)名	40(38)名	0(0)名
	表現研究科	40(20)名	40(20)名	0(0)名
	小計	120(96)名	119(96)名	1(0)名
週2日通学	美術表現科	3(0)名	3(0)名	0(0)名
	造形表現科	4(0)名	4(0)名	0(0)名
	表現研究科	15(0)名	15(0)名	0(0)名
	小計	22(0)名	22(0)名	0(0)名
	合計	142(96)名	141(96)名	1(0)名

退学理由：進路変更1名

中国人留学生の応募数が急増したことにより、平成30年に開設以来初となる120名の定員に達することができた。

2. 校務・教育

○服飾専門課程

令和5年度に、多様化したファッションビジネスに対応できる人材を育成することを目指して、クリエイティブとビジネスというコース制を廃止し、少人数ならではの自由度の高い教育を特徴として、選択科目数の大幅増によるカリキュラムを改編した。その時に入学した学生が6年度に卒業年度を迎えた。科目選択は概ね学生に好評であり、2年生後期は、学生自身が設定した目標とスケジュールにより卒業研究および卒業制作ファッションショーに臨んだ。近年では、アイドル衣装の制作を希望する学生や、ダンスとファッションとの両立を目指す学生も増え、卒業制作・研究のテーマとしてこれを題材に選ぶ学生もいて、さらにペットと共生するファッションなど、従来の卒業制作発表とは異なる形となったが、この発表は学生の満足度も高く、観客からの高評価も得た。しかし、学生個々の考えを尊重したことによる制作の遅れや技術力不足、ファッションショーの構成の難しさ、個別対応による教員の負担増、就職活動との両立の厳しさ、そもそも自身がやりたいことをやってよいという自由度の履き違いなど問題点も残した。より早い段階から教員と学生との間でコミュニケーションを密にして、制作・研究の目的・目標のすり合わせを行い、方向が異なる場合の解決策を模索しながら進めていく必要がある。

コミュニケーション力や学業に対するモチベーションに課題のある学生がいる一方、リカレント教育を希望して入学する学生もいることから、特に本校が必修としている服飾造形の授業において学生の意識や技量のレベル差が授業進行の不具合になっているため、6年度から授業補助の担当職員を常駐させたことにより、制作が遅れがちな学生に対しても、きめ細やかな対応を行うことができ、今後の指導方法への道筋となった。

渋谷という立地から、ホテルイベントやテレビの衣装協力の要請も増え、6年度は、1年生が中心となってホテル、テレビ局、アーティスト、近隣校のプロジェクト5件に積極的に参加し、デザイン、制作、リメイク、コーディネートなどに携わった。この他にも、立地を生かした展示会の見学や企業見学なども行った。良い成果を生むとともに、学生の自信にもつながるため、今後も積極的に参加するとともに、学校のPRにも活用していく。

10月に行った学園祭は、初めて文化専門課程との合同開催とした。コロナ禍で高校などで学園祭そのものの経験がない学生もいることから、まずはクラス単位での模擬店やフリーマーケットの開催としたが、楽しそうに過ごす様子が見受けられた。7年度は建築専門課程も含めて、全校での開催とするので、より広がりのある企画を期待している。

●資格試験取得状況

ファッションビジネス能力検定	3級	12名
ファッション色彩能力検定	3級	9名
色彩活用パーソナルカラー検定	3級	13名

●就職状況

コロナ禍が明け、求人状況は回復しているものの、自分でブランドを立ち上げることを希望したり、就職活動そのものに後ろ向きな学生も増えている。一方で、自身の適性の見直しや、より多くの業種の提示など、就職支援室の丁寧な指導により、就職率は75%となった。

○文化専門課程〈週4日通学〉

本校から美術系の大学院へ進学した中国人留学生がSNSで本校の環境および教育内容の良さを発信したことをきっかけに、留学生の入学希望者は200名以上に増え、初めて課程の定員120名に達した。そのうち留学生は96名に達し、その主な目的は、日本の美術大学や大学院への進学である。定員の倍近い応募者があったことから、より学ぶことへのモチベーションの高い、かつ素質のある人を選考できるようになり、その結果、学生のレベルは益々高くなり、各コース、各学科とも活気のある授業が行われた。

学生数が120名となり、カリキュラムの修正や授業準備、制作スペースの調整など繁多となったものの、可能になったことも多い。例えば、授業ごとの講評会では個性豊かな作品が数多く並び、より内容の濃い充実した講評が行われている。非常勤講師からもやりがいを感じるとの言葉をいただくことが多くなった。また、参加人数が多数となったことから、国立近代美術館では講堂でのレクチャーを受けたり、国立印刷局の特別授業を本校にて開催してもらうなど、教育普及プログラムの利用もしやすくなり、より充実した教育内容となった。

課程の活気の表れのひとつとして、学校内のスペースCTCの有効活用がある。学園祭観客賞展、修了制作優秀作品展などの授業作品を中心とした展覧会以外にも、6年度は学生個人が自主的に個展やグループ展で活用し、前年は12回であった文化課程の展示が本年は20回開催された。また、学生のレベルの向上については、独立展をはじめとする公募展への入賞・入選や、全国大学版画展における優秀賞2名および町田市立国際版画美術館賞受賞者の他、留学生の有名美術大学の多数合格などの実績があった。

●留学生の進学

96名の留学生（内20名は再入学生、国籍は中国95名、台湾1名）は、ほとんどが進学希望者であり、43名は美術系大学院、大学へ進学し、26名は本校へ再入学した。留学生のレベル向上は、武蔵野美術大学14名、多摩美術大学8名、女子美術大学7名などの難関とされる美術大学・大学院への合格が前年に比べて増加していることからも見取れる。

○文化専門課程 令和6年度留学生の進路

大学院(博士前期課程)進学	20名
大学進学・編入	23名
他の専門学校進学	5名
本校へ再入学	26名
就職・就職活動中	11名
芸術ビザ取得	1名
帰国	10名

また、これまでは大学進学を断念した留学生は帰国するケースが多かったが、日本での就職を希望する留学生も増えつつあり、今後この面でのバックアップも留意していく必要がある。

しかしながら留学生が将来も安定して入学していくかの懸念も一方ではあり、本校への入学へ憧れを持つ留学生を大切にしつつも、先々を見据えて若い日本人学生をターゲットとしたSNSでのショート動画の配信、美術系有名雑誌や全国の高校への配布物などへの広告掲載なども行った。

〈週2日通学〉

週2日通学（彫刻コース・版画コース）は再入学を希望する学生が多く、スペースも限られているため、新入生は彫刻コースの2名、版画コースの1名のみとなった。学生のレベルは高いものの、マンネリ化が懸念されるため、両コースともに、週4日通学との合同展示や合同講評会などを行い交流を深めるとともに刺激を与え合えるよう工夫した。週4日通学と同様に、公募展などへの出品も積極的に行っており、入選者・入賞者を輩出している。

3. 公開講座・美術専科

公開講座は6年度末で終了としたが、屋外スケッチ、座学、スペースCTCでの展示など、講師の協力を得ながら、最後まで活発な講座を行った。終了決定時には42講座を開設していたが、他のカルチャースクールへの斡旋も積極的に行い、全ての講座を無事に終了することができた。また、3年前に2日制の絵画・日本画コースを附帯教育から切り離して、収益事業の“美術専科”として開設したが、週末の1日のみ受講したい、公募展に出品するための大作を制作したい、幅広い技法を習得したいという学生のニーズを取り入れ、週4日通学のカリキュラムと差別化することにより、定員に近い延べ45名が受講することとなった。

○美術専科 令和6年度受講者数

受講日	定員	受講者数
金曜日	25名	25名
土曜日	25名	20名
内両曜日	—	10名

公開講座の終了に伴い、同じ収益事業の“美術専科”も改めて再編し、7年度からは絵画、彫刻、版画の3コースによる附帯教育、通称美術専科（金曜日と土曜日）とした。

4. 建築専門課程

認可の遅れのため募集活動が7月からと出遅れて苦戦を免れなかったが、毎週土曜日の説明会の実施のほか地道な努力を3月も続け、最終的に定員40名に対して14名の入学となった。7年度入学のためではなく、リサーチのために説明会に参加していたリスキリング層、留学生、高校生からの関心は高く、概ね反応も良かったので、こうした人たちへのアプローチを確実に行うとともに、さらにSNSなどを活用して課程の認知を高めていく。

5. 業務の効率化

資料請求や学校説明会の申込みなど入学希望者への対応、またWeb出願対応のためにインフォクラウドを、履修状況や出欠席、成績などの学生管理業務のためにインフォクリッパーを導入・活用し、事務作業の効率化を図り成果があった。7年度は既に導入しているサイボウズも含めて、それぞれの機能を十分に活用し、学校業務全体のDX化を進めていく。

以上